

どんな風景・どんな動植物と出会いたい?いてほしい?

＜森のイメージ＞

- 里山に囲まれた公園・里山の風景をそのまま維持する
  - ・公園というより里山・自然を残してほしい
- 自然を楽しむ人が集まる場所
  - ・多くの人が集える
- 楽しい森 ○入って美しい森=森を面的に楽しむ
  - ・森に入ってよんだよ...子どもたちが自由に分け入って遊べる山、森の中で遊べる、木の実を拾う、木こふれあう、草花、虫たちとふれあう等(園路から外れて森に入る)
  - \*今は「入る森」という感じではない
  - 道歩いて入ってよいのか、何かあるのか情報がほしい
  - ・林間園路にいつでも人気(ひとけ)がある
- 生きものに会える森
  - ・シカを含めて色々な生きもの...クマはちょっと
- 『主』がいる森
  - ・フォレスター(ドイツ):立場・尊敬が与えられる
- 四季の変化のある美しい森(落葉広葉樹)
  - 新しい木が育つ・世代交代する森
    - ・落葉樹の明るい雑木林、歩いていて楽しい
    - ⇒多様な利用ができる
    - ・一部に落葉広葉樹以外もあればよい
    - ・林床が草、低・中・高木がそろそろ森
    - ・「すさま」をうめて豊かな森に
  - 水がきれい
  - きれいな公園...
  - ゴミのない・落ちていない森
    - ・倒木などがバサバサない
  - 獣が里においてこないようバッファゾーンがある森(動物にたまに会える程度)
    - \*獣が容易に入れないような森にしてはどうか?
    - \*外の人の関心は大事だが地元の人のかつての利用・想いを大切に

＜動植物＞

- = 植物 =
- コバミツはシンボル! 守るべし
  - ・コバノミツハツツジのきれいな森にしたい
  - ・コバミツのトンネルの復活
  - ・きれいなコバノミツハツツジが見たい
- 春にヤマザクラ・ウワミズザクラが所々にちらちらと見える山
- 多様なステージの植生がモザイク状に散在する
  - ⇒変化があってよい...高木、低木林、藪、ハゲ地、植林、竹、マツ、ナラ、シイ、シデ...
- ちょっとしたトゲをもつ生物(植物)と上手に付き合う場の保全
  - ⇒それらを伝えることができる体制作りと維持は必要だけど...
- = 生きもの =
- いろんな動物・鳥のいる森(アライグマ以外)
  - フクロウもキツネも十分育てできる森
  - かつていた生きものたち
    - ・ハッチョウトンボの復活
    - ・少し前(シカが増える前)のような、カエルがうじゃうじゃ居る森や湿地
  - ウサギ
  - 大型のアゲハ類...チョウはのんびり見れる
  - 小型鳥類 ●は虫類
  - クワガタ・ヒラタクワガタがいる森 ●ホタル
  - いろんな種類の
- 野鳥、水鳥など季節が楽しみたい(楽しんでます)
  - 渡り鳥ややってきやすい森
  - ・今年はおソドリが異常に少ない
  - =シンボルの野鳥・風物詩
  - 鳥全般
- 赤ちゃんからお年寄りまですべての年齢層の人

＜シカ＞

- ＜いてほしくない?動植物＞(自分にとって居てほしくない)
- 外来種は少ない方が...
  - 外来種の動植物がもう少し減ってほしい
  - その他
  - マムシ、トカゲ、ドバト、アライグマ、野犬、野猫
  - ※いてほしくない生き物:公園であるので、物理かつ衝突による身の危険が高まる生きもの
  - 但し、いてほしくない・いてほしいとは、基本的にいえないのではないか。誰かにとって誰かは障害で、その誰かもまた別の他者の障害ということもあるし...
- シカの頭数制限
  - ・この地域のシカの最適頭数...
- 程良いシカの数...シカにもあいたい
  - ・シカは居ても良いが、もうちょっと減ってほしい
- シカのことを何とかと思うが個人でできることはあるのだろうか。
  - 必要があるなら殺傷もやむをえない。
  - 京都 deer bar ができたら 成仏を願って食べるだろう...
- まだ未解明ことがあるのでは?
  - 獣害が目立つが、どこかで収束する可能性は? 甘いか...

気になること

＜安全＞

- 土砂災害に強い山
  - ・急傾斜地対策・保水能力の増加・日がよく林床にさす山
- 山すその住宅の人々の生活が守れる森=安全・資源
  - ・山すその住宅の人々が 土砂崩れなどの危険にさらされない安全な山
- 安全な森・防災・防犯
  - 安全⇒土砂崩れ・倒木・藪・危険な野生生物のリスクを減らす
- 安心して歩ける公園にしてほしい(安全...夜間?)
  - 「土砂災害特別地区」への指定間近
  - 木は伐らなければならぬ認識を広める
  - ★法的規制との関係・問題

＜水＞

- 池の水がもう少しきれいに
  - ならないのかな
- 富栄養化...
  - 植物プランクトンが増えている。
  - ・以前、地域で水質改善の取り組みを行った。山から流れている。
- 表土が流れている
  - \*山を保全しようと思った時、決して個人的な哀愁の思いだけで動いてはならない。
  - \*地元民の意見をないがしろにすることは避けなければならない。
  - \*外の人の関心は大事だが地元の人のかつての利用・想いを大切に

今後にむけて課題

- 「安全性」や「暗さ」については『森であること』とのバランスが大切
  - ・暗いところも必要では?
  - ・痴漢、強盗などの犯罪がない ことが重要
- 『主=ぬし』をさがす。人の顔がみえる
  - 主とはその山(地域)のことを知り尽くしている生き字引みたいな人、この山やったらどうしたらええか語れる人
- 案内やゾーニングが必要
  - いやな生きもの、苦手な人でも大丈夫のように
  - 「公園」って...?
- 発信が足りていない
- 人材不足
  - 生き物好きな人をマネージメント、資金を取ってくる

やるべきこと・必要なこと

- 生存動物の実態の把握
  - 調査と 制限を加える。
- 森林を守る中核グループの組織化
- 枯れ木の処分の推進

★役割分担=人材 ★資金力が必要

★取り組み・活動の「交通整理」の組織が大切

- 宝が池周辺で、各自近い への働きかけ(特に岩倉地域)
- 周辺地域の企業への働きかけ
- 情報発信していく

★新しいネットワーク

- 岩倉地域も、松ヶ崎も 自治会などつなぐ

どんな風に利用したい?

- イメージアップ=公園としての特色
  - \*観光地としてのイメージアップ
  - ⇔あまり観光地化されたくない
- 文化的拠点としてうまく活用できる場
- 森と遊べる公園(今は森のある公園)
- 学習に使える環境
- 四季を通じて山や川であそべるような森林公園
- 人によるサイクル性のある利用をしていきたい
- 人が集まることが大切! いろいろなアイデアをだしあう
- ハイキングできる森/のんびりできる森
  - どの年代でもそれぞれの生活の中で関われる森
  - ・老若男女が一緒に楽しめる森、公園
  - ・子ども、おとなを特に分けない
  - 日々の暮らしの中で楽しめる森に
  - ・大型Pに遠方から車に来るより、歩いて、自転車から来る場
  - 森を見て気分を落ち着かせることができる(森と街両方が人間には必要)
  - 時イベントのある森
  - 森のガイドのきっかけ(楽園やポート屋)
    - ・木の名前など、ちょっと勉強できる場(初めての人も学べる)
  - ・実のなる木や草(柿、栗、アケビや野いちごetc)があって山で遊びながら節度ある食べ方で、森の恵みも味わえる山
  - ・はじめて訪れた人でも 環境のことがわかるような施設がほしい
  - 子どもが楽しんだり、自然に触れたりできる森
  - ・子どもたちにカブトムシを持って帰ってイイよと 安心して言える森(いまは数が少なすぎる)
  - いろいろな趣味・マニアが活動する森
  - 植物園のような発想/山のイメージマップ
  - 松ヶ崎の「歴史や文化」を外の人たちにも知ってもらえるような展示(パネル・映像など)も!
  - 『炭焼き』ができるように!(ここではできない! 規制がある)
    - ・宝が池の木は 宝が池の森で炭焼き!
  - 木を伐る体験がしたい人、薪がほしい人等が山の手入れに参加できる山
  - 近くの住民や学生とともに管理していくことを学んでいけるとなるといい...

＜管理にむけて＞

- 人が入ってくる・かかわる場所として
  - +きっかけづくり ⇒ 継続性
- ゾーニング!(利用形態による)
  - 公園利用部分と里山利用空間が生物のかくれか空間が共存する
  - 子どものが入りやすいエリア&林道のみ
- ★いきものについて・安全性に関しての『ルールづくり』
  - 全域管理を前提は無理がある
  - いきものについては危険生物という場所の周知、付き合い方を知る
  - 森では 人の関わり方を変える
  - 森のも不思議な力を人間に生かす(里地)?
  - 森の中を林道の整備を ○樹名札の設置(管理)
  - 学べる森、自然を守る役割の森、利用していく里山としての森
  - 間伐材の利用方法・大木の伐採は必ず専門業者を頼ること
  - 来園者が、手軽に払ってでもできる何か環境に良いことを提供する